

◎ 山梨県スポーツ推進計画の進捗状況

山梨県スポーツ推進計画第5章2の計画の進行管理に基づき、令和6年度における計画の進捗状況（数値目標達成状況）について、次のとおり公表します。

基本方針Ⅰ（子供のスポーツ機会の充実）

指 標	2022年度(令和4) の現況値	2024年度(令和6) の現況値	2026年度(令和8) の目標値
①「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における授業以外でほとんど毎日(週420分以上)、運動やスポーツを実施している児童(小5)の割合	男子 54.1% 女子 34.0%	男子 56.4% 女子 31.0%	男子 55.6% 女子 36.0%
②「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における生徒の体力合計点の平均点(中2)	男子 42.17 女子 47.80	男子 44.02 女子 48.60	男子 43.3 女子 51.3

○ 学校、地域、家庭において、子供が運動を楽しむ機会を充実させ、運動の日常化を図りながら体力の向上を目指している。

- ① 体育の授業以外でほとんど毎日（週420分以上）運動やスポーツを実施している児童（小学5年生）の割合について、男子の数値は、令和4年度（54.1%）より2.3ポイント増加した。また女子の数値は、令和4年度（34.0%）より3.0ポイント低下したが、令和5年度（30.9%）より微増しており、男女ともに全国の割合を上回った。依然として、テレビ・スマートフォン等の使用時間が増加傾向であるが、コロナ禍による運動制限がなくなり、運動に取り組む時間が増加してきたと考えられる。
- ② 体力合計点の比較（中学2年生）の全国平均値との差について、男子は、令和4年度（42.17）から1.85ポイント、女子は、令和4年度（47.80）から0.8ポイント上昇する結果となった。この要因として、コロナ禍後の運動時間の増加が結果に結びついたと考えられる。

基本方針Ⅱ（身近にスポーツを楽しむ習慣の定着）

指 標	2022年度(令和4) の現況値	2024年度(令和6) の現況値	2026年度(令和8) の目標値
①運動・スポーツ未実施率	21.3%	40.5%	10.0%
②週1回以上の運動・スポーツ実施率	69.3%	74.0%	70.0% 以上を維持
③運動不足を感じる人の割合	43.9%	42.0%	30.0%
④総合型地域スポーツクラブを知っている割合	17.1%	13.0%	50.0%
⑤総合型地域スポーツクラブに関する実態調査におけるPDCAサイクル(※)により運営の改善等を図っている総合型地域スポーツクラブの割合	37.5%	27.8%	70.0%

※PDCAサイクルとは、法人などの組織の事業活動でPlan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)を繰り返しながら業務を継続的に改善していく手法

○ 誰もが生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現し、県民一人ひとりが年齢や興味、関心、適性などに応じて身近にスポーツを楽しむ習慣の定着を支援している。

- ①②③ 令和4年度の現況値と比較すると、①運動・スポーツの未実施率は19.2ポイントと大幅に増加した。一方で、②週1回以上の運動・スポーツ実施率は4.7ポイント増加し、③運動不足を感じている人の割合は1.9ポイント減少している。令和6年度から調査方法が郵送調査からWeb調査へと変更されており、①運動・スポーツ未実施率は、この影響が数値に反映されている可能性も考えられる。同年度にスポーツ庁が実施した「スポーツの実施状況等に関する世論調査」における山梨県のスポーツ未実施率20.3%と比較しても、特殊な数値と考えられる。
- ④ 総合型地域スポーツクラブ数が32から34に増加し、幅広い世代が身近な地域で気軽にスポーツを楽しむ機会の充実を図ることができたが、クラブを知っている人の割合は、令和4年度より4.1ポイント減少した。
- ⑤ 総合型地域スポーツクラブ同士における情報交換会や合同イベントにおいて、PDCAサイクルの周知を行うとともに、市町村訪問等を通じて、総合型地域スポーツクラブ事務局内において、現状を把握し改善するための話合いの機会を設けることを示唆したが、運営の改善まで対応できたクラブは3割弱にとどまった。

基本方針Ⅲ（スポーツによる共生社会の実現）

指 標	2022年度(令和4) の現況値	2024年度(令和6) の現況値	2026年度(令和8) の目標値
①障害者スポーツ大会、スポーツ交流教室等、パラスポーツ体験イベントへの参加者数	1,581人	3,620人	2,800人
②(公財)日本パラスポーツ協会公認指導者登録者数	168人	166人	210人

○ 誰もがスポーツを通じて社会に参加し、交流できる社会を構築するとともに、興味や関心等に応じて誰もが様々なスポーツに触れて楽しむ機会を創出することにより、互いに支え合う共生社会の実現を推進している。

- ① 山梨県スポーツ協会がスポーツ参画人口の拡大を図ることを目的として新たなイベント（スポくる）を実施した。このイベントに障害者スポーツ体験ブースを設置したことにより、全体の参加者数が大きく増加した。
- ② 今年度は初級パラスポーツ指導員養成講習会に24名が受講した。また、中級パラスポーツ指導員養成講習会に2名を派遣した。令和4年度と比較すると指導員の登録者数は2名減ではあるが、上級パラスポーツ指導員が1名、中級パラスポーツ指導員が2名増加している。

基本方針Ⅳ（自らの可能性に挑戦する選手への支援）

指 標	2022年度(令和4) の現況値	2024年度(令和6) の現況値	2026年度(令和8) の目標値
①発掘・育成した子ども数	20人	60人	100人
②ターゲットエイジを対象とした発掘・育成事業を実施している競技団体の割合	82.9%	85.4%	100%
③競技力向上に係る優秀な若手指導者を育成・強化している競技団体の割合	61.0%	68.3%	100%
④(公財)日本スポーツ協会公認スポーツ指導者登録者数	2,229人	3,111人	3,500人

○ スポーツ関係団体と連携し、次世代アスリートの発掘・育成を進めるとともに、指導者の養成を進め、ジュニアからトップレベルに至る一貫指導体制の構築を図っている。

- ① 令和6年度は9競技を実施し、令和4年度からこれまで60人の児童が事業に参加している。第1期生20人のうち8人の児童が、本事業をとおして新たな種目に挑戦している。
- ② 各競技団体は、スポーツ教室を実施するなど、次世代アスリートの発掘育成に取り組んでおり、実施した割合は、令和4年度より2.5%増加した。2巡目国スポで活躍が期待できる選手確保のために各競技団体が取り組み始めたものと考えられる。
- ③ 各競技団体がこれまで若手指導者を育成・強化してきた割合は、令和4年度より7.3%増加した。2巡目国スポに向けて、若手指導者確保のために各競技団体が取り組み始めたものと考えられる。
- ④ 登録者数は、年々増加傾向にあり、令和4年度より882人増加した。指導者不足が懸念される中、各関係団体が指導者養成に取り組まれた結果であると考えられる。

基本方針Ⅴ（スポーツによる経済の好循環）

指 標	2022年度(令和4) の現況値	2024年度(令和6) の現況値	2026年度(令和8) の目標値
①観光客1人当たりの平均入場料・体験料等	310円	438円 ※1	1,000円
②サイクルツアーガイド養成数	15人	40人	45人
③新たなスポーツイベントの誘致・開催数	0回／年	3回／年	2回／年
④トップスポーツクラブ等と連携した地域活性化につながる取組の開催数	21回／年	25回／年	30回／年

※1 現況値は2023年度(令和5)のデータ

○ 「やまなしスポーツエンジン」を令和4年4月に設立し、「スポーツで稼げる県」の実現に向けた取り組みを進めている。

- ① コロナ禍で落ち込んだ数値が回復途上ということもあり増加した。引き続き、文化・伝統工芸体験を打ち出した付加価値の高いツアー造成支援や集客性の高い新たなスポーツイベント等の開催支援に取り組む。
- ② 令和4年度から令和6年度まで計画的に募集を行った結果、令和4年度が15名、令和5年度が14名、令和6年度が11名養成した。やまなしスポーツエンジン主催イベントの他、富士ヒルクライム等県内で行われているサイクリングイベントにおいて活用されている。
- ③ 新規性の高いスポーツイベントへの支援について募集を行った結果、令和6年度、新たに3件のイベント開催が実現した。
- ④ トップスポーツクラブが公式戦のホームゲームにおいて取り組んだ数は、令和4年度より4回増加している。各スポーツクラブが地域と連携し、情報発信や周知活動を積極的に進めている結果と考えられる。